

## 『出 会 い』

---

長期の不妊治療のさなか、今後に不安を感じていたとき、テレビ番組である有名人が里親になって里子と温かい関係を築いていることを聞き、初めて里親という存在を知りました。子どもが好きだったし、たとえ実子でなくても子どもと関わった生活を送りたかったし、その中で何かしら自分も成長できるのではと思い、里親になろうと思いました。

児童相談所のマッチングで紹介された子どもは当時2歳でした。初めて子どもにあう時大きな期待と緊張感で、私たちはどんな形相をしていたのでしょうか・・・？保育士さんに名前を呼ばれたその子は満面の笑顔を向けました。

すると目が合い、「ああこの子か！」と思った瞬間に、その子はスーッと視線を外してしまいました。ズキンとしたと同時に、子どもってスゴイと思いました。「本当に良いのか？」「うまくやっていけるの？」とたくさんの思いが湧き上がってきました。でも体当たりでやってみないと答えは出ない。受入れようと決めました。

ご近所の方へは、町内の会合の時に自分たちの子どもとして迎え入れたことを報告しました。今でも町内の行事で集まる時には、「おおきくなったね～。」「男前だね。」「近所のどの子より、よく挨拶してくれるし、良い子だね。一番かわいいわ～。」と褒めて下さいます。外面が良いだけのことなのですが、ご近所の方々にもなじんできたなあと思える時です。

子どもと暮らし始めると、何と言っても家の中の空気が変わりました。家族の気持ち子ども中心になり、会話の内容が増えました。会話のほとんどが「〇〇ちゃんの・・・が」「〇〇ちゃんが・・・」というように子どもの名前から始まる内容だったように思えるほど・・・。たぶん自分たちでも気づかないくらい、競い合うように子どもを話題にしていたと思います。

おじいちゃんやおばあちゃんの反応を心配した時もありましたが、とても喜んでくれました。弾んだ声の調子や笑い声がぐんと増えて確実に家の中の温度が上がったと感じました。子どもの誕生日はもちろん、お正月に節句、お花見、お盆、運動会、クリスマス等で、子どもと楽しむために、いろいろ工夫しました。そして家族みんなが笑顔になりました。

でも、こんなこともありました。養子縁組が成立するまでの養育期間中は、一般的な健康保険証ではないので、医療機関を受診した際には外来窓口に説明を求められたことがありました。私たちは我が子と思っているけど、家族ではないと言われたようで切なく感じました。

ほかに、保育所や学校等の雰囲気自分たちのころとはずいぶん違って、コミュニケーションの取り方や人間関係の作り方に気を配ることが多かったような気がしました。

あれやこれやしているうちに、子どもとの関係は一日いちにち深まり、他の人から「ママは？」と聞かれて、私の方を振り向いてニコッと笑うたびに、親子を実感し、ホッコリするのを感じていました。

養育期間中も家族として当然のように接してきましたが、ひとつの節目として、特別養子縁組の手続きが終了し、正式に戸籍上に『子』として表記されたのを見たときは、なんともいえない安堵感がありました。

来年には社会人になる年頃です。健康で、他人への思いやりを忘れず、あいさつでできる人間になるよう声掛けしています。あいさつから良い人間関係を作り出していく糸口になると思うからです。

そう思うのは、こんなことからなのです……。私たちは、子どもの同級生の親よりひとまわり年上です。子どもといっしょにいる時間が短いです。子どもが大人になり困ったことが起きて、私たちが力になれることは少なく限りがあります。すごく歯がゆいです。子どもの将来を考えると、より多くの友人を持ち、よりよい人間関係を築いてほしいと願います。このような願いは、どの親も同じ思いなのではないでしょうか。

私たちの経験から、一人でも多くの子どもたちに可能な限り、家庭生活を送ってもらいたいと考えます。そのためにも里親になってくださる方が増えて、環境が広がることを願っています。里親の形も様々ありますが、子どもを迎え入れて生活することは、子どもたちの将来にも里親自身にも一歩も二歩も成長できる機会になると思います。